



第42回 公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会報告

10月20日(木)、第42回公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会が、ウェブ会議システムによりオンラインで開催された。大会主題「深めよう心と体を育む食教育」のもと、講演、実践発表、指導講話により充実した研修となった。各校での食育活動の発展に向け、考えを深めることができた。

1 講演 「～子どもたちが見て、聞いて、驚いて再発見！～魅力的な食教育との出会いを考えよう」

講師 九州女子短期大学 子ども健康学科 特任教授 大分大学名誉教授 住田実先生



専門職として、子どもたちにとって面白く、興味深く、知的好奇心を刺激する食教育ができて初めて、適切な食生活の大切さを伝えることができることが分かった。子どもたちが目を輝かせるような食教材を研究することの重要性を教えていただいた。食教育の引き出しを増やし、子どもを引き付ける話ができるようにしていきたい。

2 実践発表 「かかわる つながる つくりだす 児童の育成 ～健やかな心と体を育む食育への取組を通して～」

松山市潮見小学校 栄養教諭 都築 弥生 先生

松山市立潮見小学校の3年間にわたる学校給食指定校を受けての研究実践を発表していただいた。各教科や給食時間の指導、さらには家庭・地域へと発信された研究内容は大変参考となった。中でもICTを活用した食に関する指導実践は、これからの食育に必要なものであり、コロナ禍における指導方法としても多くを学ぶことができた。



3 指導講話 「食に関する指導の充実に向けて」

講師 愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 川本 道則 先生



学校における食育の推進、食に関する指導の全体計画、栄養教諭の資質能力向上に向けて御指導いただいた。栄養教諭でなければ果たすことのできない役割を考え、学校の中で発信していくことの大切さや日々の給食や学習活動での食育の積み重ねが食育推進体制の構築と食に関する指導の充実につながることがわかった。愛媛の子どもたちのためにも、自らの資質能力の向上に努めていきたい。



参加者アンケートより

- コロナ禍の中で、児童生徒にどのような働き掛けをすればよいのかを学ぶことができ、大変勉強になりました。
- ICTの活用事例について大変参考になりました。苦手意識を認めた上で学ぶ努力と努力を楽しむ資質を身に付けたいと思います。
- 実践発表ではたくさんの指導のアイデアを教えていただき、大変参考になりました。